

病院に勤務する男性看護師の職場ストレスの実態（その2）

— 所属部署・病棟別での比較 —

辻本 雄大¹⁾、前田 貴彦²⁾、上杉 佑也²⁾、古川 陽介³⁾、岩下 悠⁴⁾、平田 研人⁵⁾、田中 喜彦⁶⁾、藤本 泰博⁷⁾

1) 奈良県立医科大学附属病院、2) 三重県立看護大学、3) 名古屋市立大学病院、4) 名古屋市立大学大学院看護学研究科博士前期課程
5) 天理よろづ相談所病院、6) 上尾中央専門病院、7) 聖マリアンナ医科大学病院

研究目的

男性看護師の配属は、精神科病棟や手術室が多い傾向にあったが、近年は、一般病棟や小児病棟など様々な部署・病棟に配属されはじめています。しかし、配属される部署・病棟に男性看護師が一人であったり、男性看護師を受け入れることが初めてであったりする場合も少なくない。また、患者や家族に看護師として認識されず、対応に苦慮することもある。そこで今回、男性看護師の職場ストレスについて、所属部署・病棟別での特徴や傾向を明らかにすることを目的とした。

方法

対象：全国の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する施設から層化無作為抽出した950病院の内、本研究に協力の得られた422病院に勤務する男性看護師8,105名。

調査方法：平成27年10月～平成28年3月に、無記名の選択式自記式質問紙調査を実施した。

主な調査内容：年齢や臨床経験年数、職場ストレス尺度（以下：尺度）を測定した。

分析方法：対象者が所属する14の部署・病棟別に、各項目の無回答を除き、尺度全体の合計点と各下位尺度の合計点を算出し、一元配置分散分析（多重比較）を行った。

なお、所属部署・病棟が不明な者、その他の者については、今回の分析からは除外した。

*職場ストレス尺度：福田広美、井田政則：心理測定尺度集VI、職場ストレス尺度、291-295、サイエンス社、東京、2012。

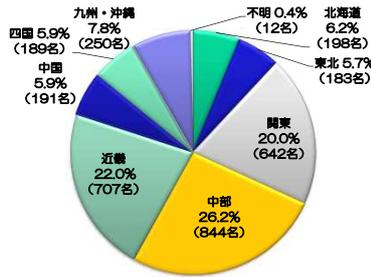
倫理的配慮

本研究は、研究代表者が所属する倫理審査会の承認を得て実施した。なお、質問紙の返送をもって同意とみなした。また、尺度の使用にあたっては、開発者の承諾を得た。

結果

回答者の概要

回答者：3,224名（回収率39.8%）、有効回答：3,216名
平均年齢：33.81±8.05歳、平均臨床経験年数：9.98±7.35歳
病床数：300-500床未満 1,224名（38.1%）、500-700床未満 717名（22.3%）



所属部署名 (%)	外科系病棟	内科系病棟	混合病棟	小児病棟
	380名 (11.8%)	449名 (14.0%)	456名 (14.2%)	41名 (1.3%)
	精神科病棟	整形外科病棟	腎泌尿器系病棟	救急外来
	210名 (6.5%)	191名 (5.9%)	21名 (0.7%)	144名 (4.5%)
	手術室	検査室	集中治療室	透析室
	424名 (13.2%)	26名 (0.8%)	473名 (14.7%)	70名 (2.2%)
	一般外来	医療安全に関わる部署		
	35名 (1.1%)	21名 (0.7%)		

所属部署・病棟別比較

- 尺度全体の上位5部署・病棟は、精神科病棟、一般外来、混合病棟、外科系病棟、内科系病棟であった。逆に下位は、医療安全に関わる部署、手術室、救急外来、集中治療室、検査室であった。
- 下位尺度の比較において、外科系病棟、内科系病棟、混合病棟、精神科病棟、手術室、集中治療室、医療安全委関わる部署で有意差を多く示す結果となった。

部署 平均値	①外科系	②内科系	③混合	④小児	⑤精神科	⑥整形 外科	⑦腎泌 尿器	⑧救急 外来	⑨手術 室	⑩検査 室	⑪集中 治療 室	⑫透析 室	⑬一般 外来	⑭医療 安全
全体	72.9 374名	72.3 443名	72.8 451名	71.5 40名	73.9 206名	71.4 187名	72.1 20名	68.7 143名	66.6 411名	69.1 26名	69.0 464名	71.3 69名	73.6 34名	60.9 21名
VS有意差あり	③④⑤	③④⑤	③④⑤⑥⑦	-	③④⑤⑥⑦	④	-	③⑤	①②③④⑤	-	①②③⑤	④	④	①②③⑤⑥⑦⑧
業務遂行	20.3	20.1	20.1	21.0	19.4	20.0	19.3	18.8	19.1	19.5	19.6	19.1	20.0	16.2
VS有意差あり	③④⑤⑥	④	④	④	-	④	-	①	①	-	④	-	-	①②③④⑤⑥⑦
上司同僚	14.7	14.4	14.8	15.3	14.9	14.9	14.9	14.0	14.7	14.6	14.5	15.8	16.3	13.8
VS有意差あり	-	-	-	-	-	-	-	⑧⑨	-	-	-	⑤	⑤	-
多忙	15.2	15.3	15.5	14.1	14.3	15.0	15.3	14.3	14.0	13.8	14.3	14.0	14.8	11.8
VS有意差あり	③④⑤⑥⑦	③④⑤⑥⑦	③④⑤⑥⑦⑧	-	①②③④	④⑤	④	③④	①②③④⑤	-	①②③④	③	④	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
葛藤	13.4	13.4	13.2	12.3	16.0	12.6	13.4	13.4	10.3	12.4	12.2	13.3	12.7	11.2
VS有意差あり	③④⑤⑥	③④⑤⑥	③④⑤⑥	③④	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	③④	③④	③④⑤⑥	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	⑤	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	③④	③④	⑤
無力感	8.9	9.1	9.1	8.9	9.2	8.9	9.4	8.2	8.4	8.7	8.5	9.0	9.7	7.9
VS有意差あり	-	③④⑤⑥	③④⑤⑥	-	③④⑤⑥	-	-	②③④⑤	②③④⑤	-	②③④⑤	-	-	-

*全体：尺度全体（22-110点）、業務遂行：業務遂行に伴う重負（6項目：6-30点）、上司同僚：上司・同僚との葛藤（5項目：5-25点）、多忙：多忙・業務過多（4項目：4-20点）
葛藤：看護ケアに関する葛藤（4項目：4-20点）、無力感：看護に対する無力感（3項目：3-15点）

考察

男性看護師の配属が比較的多い、救急外来や集中治療室、手術室で平均値が低い傾向にあった。男性看護師は、身近に男性看護師がいることで心強さや安心感を感じる者が多いことから、男性看護師数の配属数が職場ストレスの程度に影響を与えていると考える。また、下位尺度について、特に手術室では、麻酔下の患者であり自己の訴えがほとんどないため、患者の訴えに関する項目で構成されている【患者ケアに対する葛藤】が他よりも値が低くなったと推察する。